

動物編
哺乳類



哺乳類の概要

宮城県に生息する哺乳類の分布を一望すると、一部の例外を除けば、西側の山地・森林帯に分布が偏るグループと、山地から東側の太平洋沿岸部まで分布範囲が比較的広いグループに分かれる。

西側の山地では、高標高地域でオコジョ *Mustela erminea* が見られるほか、良好な自然の残された地域では例えばヒメミズ *Dymecodon pilirostris* や様々な種のコウモリ *Chiroptera* など、休息や採食に関して天然林に依存する種が生息・繁殖している。特定の生態系要素に依存する種（溪流で採食するカワネズミ *Chimarrogale platycephala*、洞窟性のコウモリ類など）の多くの場合は山地で見られる。一方で、タヌキ *Nyctereutes procyonoides* やイタチ *Mustela itatsi*、アナグマ *Meles meles*、一部のコウモリ類など、森林と田畑や住宅地がパッチ上に入り組む平野部においても広く確認される種がある。近年になって福島県から北上し定着したと考えられるカヤネズミ *Micromys minutus* は、丘陵地に形成された谷戸の休耕地近辺で繁殖していると考えられる。東部の海岸線で一般的に見られるのは、小型のネズミ類、ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* やニホンリス *Sciurus lis*、コウモリ類ほか、中型の肉食哺乳類などである。

ニホンカモシカ *Capricornis crispus* やツキノワグマ *Ursus thibetanus*、ニホンザル *Macaca fuscata* などは、本来森林性であり人為的な土地利用に完全に適応しているわけではないが、行動圏が広いために人間の居住地で目撃される個体が増え、また人里に定着した一部個体群では農林業への被害も依然続いている。そのほかイノシシ *Sus scrofa* やニホンジカ *Cervus nippon* も、分布圏を急速に拡大し農林業被害の増大を招いている。外来種としては、近年アライグマ *Procyon lotor* の情報も各地で散見される。

哺乳類については、2000～2010年に得られた分布情報を元に、「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト2013年版—」を作成したが、作業の間にもさらに調査が進行したこと、また東日本大震災の影響も踏まえて本稿での見直しが行われた。以下にその概要をまとめる。

○東日本大震災の影響

東日本大震災の津波によって植生が失われた地域では、一時的に哺乳類相も大きなダメージを受けた。しかし多くの地域では1～2年のうちに一部のネズミ類、ネコ科・イヌ科動物が行動圏を広げ、次第に種数の回復が進行した。現在では、例えば特に樹上性の強いニホンリスやニホンノウサギなどが、沿岸部のかつての松林などの地域に戻っていないとされる。

震災の影響は比較的限定的であったが、それは、沿岸部に特異的に依存する陸生哺乳類がもともと県内には存在しなかったことに起因しているのであろう。

しかし、個体群の一部に対する震災の長期的な影響については、依然として不明な点が多く、今後も見守っていくことが必要である。例えば、東松島市宮戸島では、洞穴をねぐらにして沿岸部で採餌すると考えられる、様々な種のコウモリ類が確認されてきた。中でもヒナコウモリは、越冬のための大集団をそこで作ることがわかっている。大震災の影響で利用可能な洞穴の数やサイズが変化したことから、個体群には一定の影響が生じたと考えられる。しかし、主要な洞穴の崩落が起きたほか、震災後に土地変化が進んだ影響で調査が困難になり、個体群の動向は十分に把握しきれていない。

またニホンザルの孤立個体群が生息する宮城県金華山島ではニホンジカが高密度で生息するため島の植生変化が進行しており、もともと草原化や土壌の乾燥・崩落が指摘されてきた。大震災で一部の食物利用可能度に変化が生じていることから、今後の影響についても見守っていくべきであろう。

○リストの見直し

宮城県では特に、宮城野野生動物研究会のたゆまざる努力により、コウモリ類の分布データの蓄積が著しい。2000年以降2014年までの資料を分析した結果、コテングコウモリ *Murina ussuriensis* が比較的広い範囲で普通に見られることが明らかになり、今回はレッドリストへの掲載を見送ることとした。その反対に、県内での情報が得られたクロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinus* については絶滅危惧I類として掲載した。

なお、本稿の最終段階では、小野田町でノレンコウモリ *Myotis nattereri* (環境省カテゴリ: 絶滅危惧II類) が1例、確認された。本県において同種が初めて記録されたもので、今後の生息確認調査の結果に注目したい。

○その他注目すべき点

宮城県では海棲哺乳類(沿岸域水棲のものを含む)をレッドリストの掲載対象としていない。この点については、今回の改訂では海棲哺乳類のリスト化について見送り、次回改定時に掲載を検討することになった。宮城県ではイタチ科のラッ

コEnhydra lutris、アシカ科のオットセイ *Callorhinus ursinus*、アザラシ科のゴマフアザラシ *Phoca largha*、ゼニガタアザラシ *Phoca vitulina*、ワモンアザラシ *Phoca hispida*、ナガスクジラ科のニタリクジラ *Balaenoptera brydei*、ミンククジラ *Balaenoptera acutorostrata*、ザトウクジラ *Megaptera novaeangliae*、マッコウクジラ科のマッコウクジラ *Physeter macrocephalus*、コマッコウ科のコマッコウ *Kogia breviceps*、アカボウシクジラ科のハップスオウギハクジラ *Mesoplodon carlhubbsi*、マイルカ科のハナゴンドウ *Grampus griseus*、ネズミイルカ科のイシイルカ *Phocoenoides dalli*、スナメリ *Neophocaena phocaenoides* など様々な哺乳類が洋上で、あるいは海岸で死体となって発見されており、中にはラッコのように希少性の高い種もあることから今回の検討が待たれるところである。

【作業部会名簿】

氏 名	所 属 等
高橋 修氏	宮城野野生動物研究会
秋葉 保夫	同 上
小山 均	同 上
斉藤 千映美	宮城教育大学環境教育実践研究センター

参考文献(例外をのぞき2001年以降に出版されたもの)

1. 阿部永(監修). 2005. 日本の哺乳類. 東海大学出版会.
2. 秋葉保夫・高橋修・高橋雄一. 1996. 宮城県の野生哺乳動物. 宮城野野生動物研究会.
3. 安藤元一. 2008. ニホンカワウソ絶滅に学ぶ保全生物学. 東京大学出版会.
4. (株)建設環境研究所. 2015. 平成26年度鳴瀬川総合開発環境調査(陸域動物)業務調査結果(哺乳類・両生類・爬虫類).
5. 金子之史. 2008. ネズミの分類学. 東京大学出版会.
6. Ishiguro, N., Inoshima Y. and Shigehara N. 2009. Mitochondrial DNA Analysis of the Japanese Wolf (*Canis lupus hodophilax* Temminck, 1839) and Comparison with Representative Wolf and Domestic Dog Haplotypes. *Zoological Science*, 26:765-770.
7. 伊沢紘生・中川尚史・川添達朗・藤田志歩・風張喜子・宇野壮春・関健太郎・三木清雅. 2013. 金華山島に生息する野生ニホンザルの個体数調査. *霊長類研究所年報*, 43: 113.
8. コウモリの会(編). 2005. コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版.
9. 宮城県. 宮城県ニホンジカ管理計画. 2013.
10. 宮城県. 第二期宮城県イノシシ保護管理計画. 2015.
11. 宮城県. 第三期宮城県ニホンザル保護管理計画. 2015.
12. 本川雅治(編). 2008. 日本の哺乳類学 1小型哺乳類. 東京大学出版会.
13. 仲村得喜秀・広瀬章裕. 1986. 宮城県のコウモリ. *東北の自然* 17: 2-7.
14. 中沢智恵子. 2010. 明治時代東北地方におけるニホンオオカミの駆除. *Wildlife Conservation Japan*, 12(2): 19-38.
15. Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, and T. Saitoh (ed.).2009. *The Wild Mammals of Japan*. 松香堂書店. 544p.
16. 仙台市. 平成25年度仙台市アライグマ生息確認調査業務委託報告書. 2014.
17. 高橋修・高橋雄一. 2012. 商人沼自然環境保全地域候補地学術調査報告書. Pp.110-119.
18. 移川仁・斉藤千映美・溝田浩二. 2005. 青葉山市有林(仙台市)の哺乳類相. 宮城教育大学環境教育研究紀要, 8:131-138.
19. Yoshiyuki, M. 1989. A Systematic Study of the Japanese Chiroptera. *National Science Museum*, 242p.